

賀美公民館だより

十一月 ^{こがねいろ} 黄金色の夕映えに飛ぶ小白鳥のシルエット 短日の夕映えがすべてを
黄金色に染める 〈空の青海の青にも染ま〉らない牧水の白鳥をも ひととき
黄金色に染める 1984・8・29 座興に 吉野 弘



署名と共に刻印が押され一年が詠われています。

22日は「詩の朗読と語り」と題して、せせらぎ大学・サルビア学級共催事業に
詩人吉野 弘（1926－2014）さんのご長女奈々子さんに講師を勤めていただきます。
中学の国語教科書に掲載された詩「奈々子に」のご本です。

「二人が睦まじくいるためには愚かであるほうがいい」で始まる「祝婚歌」も「・・・やさし
い心に責められながら娘はどこまでゆけるだろう。下唇を噛んでつらい気持ちで美しい夕焼けも
見ないで。」で終わる「夕焼け」の詩も耳にし目にされた方は大勢いらっしゃるかと思います。

当日は皆様方のお越しを心よりお待ち申し上げております。

賀美公民館長 岡芹 孝行

『せせらぎ大学・サルビア学級』共催



ちゅれんじクラブ
賀美公民館・児童館共催

もちつき

詩の朗読と語り

日 時：12月9日(土)午前11時
場 所：賀美公民館 駐車場(雨天決行)
対 象：小学生・幼児(同伴の大人可)
定 員：150名(定員になり次第締め切り)
申 込：11月27日(月)までに申込書に
記入し公民館又は児童館へお申込み
ください。引換券をわたします。

参加費：無料

お知らせ

○賀美公民館友の会・推進員合同会議

11月25日(土)午後7時

※出席依頼者については、別途通知します。

○消防訓練 12月4日(月)午前10時

※公民館利用団体の方、ご協力をお願いします。

早春のバスの中で
まもなく母になりそうな若いひとが
膝の上で
白い小さな毛糸の靴下を編んでいる
まるで
彼女自身の繭の一部でも作っているように。
彼女にまだ残っている
少し甘やかな「娘」を
思い切りよく
きっぱりと
繭の内部に封じこめなければ
急いで自分を「母」へと完成させることが
できない
とでもいうように 無心に。

吉野 弘

こんばんは 早めのライトで ごあいさつ

『もちつき大会参加申込書』

氏 名 _____
電話番号 _____
学 年 _____

『詩の朗読と語り参加申込書』

氏 名 _____
電話番号 _____

